



協定書を手にする中逸町長（左）と本田秀利経営管理部長（右）

11/4 連携をさらに強化し、住民サービスの向上を
日本郵便株式会社と包括的連携に関する協定を締結しました

町と日本郵便株式会社（出西信治九州支社長）は、包括的連携に関する協定の締結式を行いました。町は、平成28年2月に「災害発生時における長洲町と長洲町内郵便局及び玉名郵便局の協力に関する協定」を締結し、さらに平成30年3月には「長洲町見守りネットワーク事業協定」を締結するなど同社と連携を深めてきました。今回、包括的連携に関する協定を締結したことにより、つながりをさらに深め、お互いが持つ人的資源と物的資源を最大限有効に活用し、住民生活の利便性の向上を目指してさまざまな取り組みを連携して行うこととしています。中逸博光町長は、「締結できたことは、町にとって大きな強みであり、同社の豊富なマンパワーと全国に広がるネットワークなどを活用させていただき、町の大きな飛躍の第一歩となることと思っています」と町のさらなる発展に向けて力強く話しました。



親子で仲良くあいさつ運動（腹栄中）



生徒会執行部が元気にあいさつ（長洲中）

あいさつで地域とつながる
町内中学校であいさつ運動を実施

腹栄中学校（牧山純一校長）と長洲中学校（中山直幸校長）では、生徒たちが自ら考えたあいさつ運動を実施しています。腹栄中学校では、例年、PTA活動の一環として正門で保護者があいさつ運動をしていますが、生徒会執行部からの提案で「親子あいさつ運動」を始めました。親子であいさつ運動を行うことで、地域で出会うときにも気軽に笑顔であいさつできる関係を作りたいとの理由から、生徒会主体での「親子あいさつ運動」に取り組み始めました。また、長洲中学校でも、「子どもも大人もあいさつができる地域を目指そう」と生徒会執行部からの提案であいさつ運動が行われています。地域の皆さんと元気にあいさつを交わし、地域とのつながりをよりよいものにしていくことを目指します。



松井一也養魚組合長（右から2人目）にお礼の言葉を伝える園児たち

10/23 長洲しおかぜこども園と長洲こどもの海保育園に
ながす金魚と水槽セットを寄贈

町は、長洲しおかぜこども園（吉村シズ代園長）と長洲こどもの海保育園（村上太一園長）に、ながす金魚と水槽セットを寄贈しました。この日は、琉金、オランダシシガシラをはじめ東錦、丹頂、頂点眼などの金魚と水槽を寄贈し、寄贈した金魚と水槽は、玄関などに飾られ、毎日子どもたちを迎えています。子どもたちは、「大切に育てます」とうれしそうに話しました。



作業を行う会員の皆さん

10/29 会員による社会貢献活動
シルバー人材センターがボランティア活動を実施

公益社団法人長洲町シルバー人材センター（竹本康美理事長）は、町役場敷地内や公共施設の草取りなどのボランティア活動を実施しました。これは、10月を「シルバー人材センター事業不急啓発月間」と定めていることから毎年実施されているもので、当日は多くの会員が参加し、落ち葉の清掃や草取りなどで汗を流しました。シルバー人材センターは、高齢者が働くことを通じて生きがいを得ると共に、地域社会の活性化に貢献する組織で、町内の多くの高齢者が会員となっています。会員がこれまで培った技能や知識を活用して、公共施設の管理や民間の仕事も数多く受注されています。



女性消防隊から救急救命について学びました

10/17 区民の防災意識を向上
下本区で防災訓練を開催

下本区（久山守区長）は、下本区介護予防防拠点施設「有明先成荘」で防災訓練を開催しました。これは、区民の防災意識を高めたいとの目的で行われたもので、約30人の区民が参加しました。この日は、女性消防隊による救急救命法やまちな食生活改善推進員による災害時の調理方法などについて学びました。



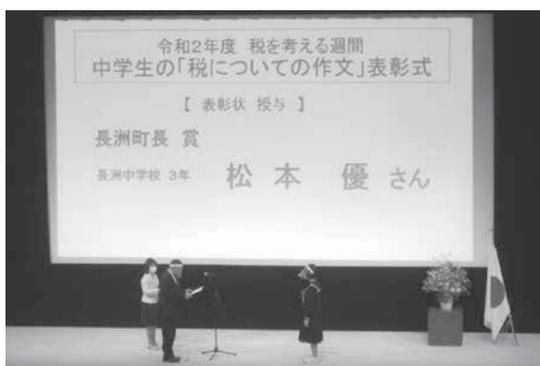
干潟の状況について話す中逸町長（左）と是永宇佐市長（右）

10/27 水産振興に向け更なる連携を！
大分県宇佐市と水産振興に関する意見交換会

町は、水産振興に関する包括連携協定を結んでいる大分県宇佐市（是永修治市長）と意見交換会を開催しました。この日は、中逸町長と是永宇佐市長をはじめ、行政関係者、漁業関係者、有識者が参加し、長洲地先で干潟の環境改善のため調査研究を行っているフルボ酸鉄シリカ資材の設置場所や海苔の乾燥施設を視察した後、意見交換会を行いました。意見交換会では、両市町の取り組みの報告やそれぞれが持つ課題などについて活発な意見交換がなされ、今後、さらなる水産振興に向け連携を強化していくことを確認しました。

税の作文表彰式

11月15日⑩に玉名市で行われた「令和2年度中学生の税についての作文表彰式」で、町内在住の3人が各賞を受賞しました。これは、税への関心と理解を深めてもらうために、税を考える週間実行委員会が募集しているもので、ことは、荒尾・玉名管内から801点の応募がありました。



松本 優さん (下本)



大賀 美乃さん (腹赤)



糸山 美希さん (腹赤)

〔長洲町長賞〕
松本 優さん (長洲中3年)
「なくてはならない税」

〔長洲町教育長賞〕
大賀 美乃さん (腹赤中3年)
「税に感謝」

〔玉名荒尾地区青色申告会連合会会長賞〕
糸山 美希さん (腹赤中3年)
「税は大切」

ここでは、長洲町長賞に選ばれた松本優さんの作文を紹介します。

「なくてはならない税」

長洲町立長洲中学校3年 松本 優

「よく知らないけれど無くても困らないだろう。」
私は税のことをそう考えていた。税、と言われてもそれがどう使われているのかや自分とどう関わっているのかはほとんど知らなかった。しかし、その考え方が大きく変わる出来事があった。

私の税についての考え方が変わった出来事とは、インターネットで「公共施設は税金で賄われている」という記事を読んだことだ。私は普段、町の図書館をよく利用する。図書館には自分の読んだことのない本がたくさんあり、無料で利用することができからだ。しかし、なぜ無料で利用できるのかということには考えたことがなかった。調べてみると、図書館などの公共施設は国民が納めた税金によって建設、運営されていることが分かった。

他にも、ごみの回収や道路の整備、警察や消防の活動など様々なことに税金が使われていることを知った。私はこれらのことを知って、自分の生活に税がこれほど関わっているんだととても驚いた。また、今まで自分と切り離して考えていた税が



ソフトボールで優勝した下東子ども会



ビーチボールバレー (低学年の部) で優勝した東荒神・下東・今町 (長洲おてんばガール)

11/8 町子ども会連合会がウォークラリー・球技大会を開催

町子ども会連合会 (高松孝二会長) は、総合スポーツセンターでウォークラリーと球技大会を開催しました。

ウォークラリーには8チームが参加し、総合スポーツセンターをスタート・ゴールとして約3キロメートルを歩き、コース途中にあるゲームやクイズなどを楽しみました。

球技大会は、ソフトボールに2チームとビーチボールバレーに8チーム (高学年の部6チーム、低学年の部4チーム) が参加し、白熱した試合が繰り上げられました。



長洲町のブースでは金魚すくい体験をしました

11/19 荒尾・玉名地域の魅力をPR 観光列車「36ぷらす3」が運行開始

JR九州の新しい観光列車「36ぷらす3」の運行開始に合わせて、JR玉名駅で観光PRを行いました。

この日は、博多駅～鹿児島中央駅間の運行初日とあって、荒尾・玉名地域の2市4町 (荒尾市、玉名市、玉東町、和水町、南関町、長洲町) のゆるキャラやくまモンもかけつけて、特産品の販売や荒尾・玉名地域の魅力をPRしました。



調印式に参加した首長および議長

11/8 自治体間の広域連携を強化 定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結

町は、大牟田市 (関好孝市長) との定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結しました。

これは、事業の進捗や状況の変化に合わせて、平成25年3月に締結した協定内容の見直しを行ったものです。

この日は、長洲町のほか、柳川市、みやま市、荒尾市、南関町の大牟田市を中心とする有明圏域3市1町も同様の協定を締結しました。

今回の協定により、有明圏域を構成する市町の連携強化とともに、圏域の発展と行政サービスの向上を図っていきます。

自分と密接に関わっていて、自分の暮らしを豊かにしてくれていることに気付くことができた。

税のおかげで豊かになっている暮らしだが、最近制限されることが増えた。現在大流行中の新型コロナウイルスである。毎日、何百という数の方が感染し、未来ある人々の尊い命を奪っている。飲食店や宿泊施設、医療施設などありとあらゆる施設が対策に追われている。私の通っている中学校だって例外ではない。楽しみにしていた行事が無くなった。授業の中で友達と意見交換をする時間が減ったり、多くの影響を受けた。新型コロナウイルスによって受けた影響はどうやって補われていくのだろうか。これもまた、税が関わってくるのではないかと思う。暮らしを豊かにする「税」は、暮らしを支える「税」でもある。そのことをきちんと理解して税金のより良い使い方を一人一人が考えていくべきだと私は思う。

自分の中で、無くても困らないと思っていた税が「なくてはならない税」という認識が変わった。今は税の恩恵を受ける立場であることが多いが、将来自分が税金を納める立場になった時、税金の使われ方に関心を持ち、社会の中で自分の担う責任を果たしていきたいと思った。